

学年世話係

学年世話係は、学年を統率して管理する係ではない。授業、学級経営等は、担任の個性で担任が責任をもってやっていくべきであり、学年全体で同じことを同じようにやっていくものではない。学年全体で取り組まなくてはいけないものは、みんなで相談して、分担してやっていく必要がある。学年内での共通理解、情報交換が、大切な仕事である。

学年世話係は、

1. 何をしているか、どんな授業をしているか、どんな学級経営をしているかをいつも話をする。
2. 自分で、何でも決めないで、どんどん相談していく。
3. いろんな仕事を分担して、頼っていく。

ことが大切だと思う。

学年世話係の仕事

○年度当初（ワークシートをつくっておくとよい。項目を挙げてみんなに相談していく。）

1. 教材の年間指導計画→教育課程（学校にあるはず、それを参考に）
 - ・見学、体験の計画も入れる。（去年のを参考に）
2. 行事計画の相談→年間行事計画の作成（去年のを参考に。世話係がつくる）
 - ・遠足的行事、社会見学等の係分担
 - ・運動会の係分担
 - ・音楽会の係分担
 - ・その他（入学式・自然学校・冬季野外活動・卒業式）
3. 教科担当の分担の相談（校務分掌と重ねる。仕事内容を確認する。）
 - ・教科担当者は、学年打ち合わせで教材解釈、授業計画を提案。
 - ・教科担当者は、授業における教材を準備する。
 - ・教科担当者は、単元末テストの準備
4. 校務分掌事務分担の相談（係から出てきてからでもよい）
 - ・会計、研修、生徒指導 など
5. 4月の学年だより（世話係がつくる。去年のを参考に）
 - ・5月からは、輪番。（決めておく）
6. 学年で相談しながら副教材の採択（係から出てくる・去年のものを参考に）（多分、これぐらい）
 - ・計算ドリル、漢字ドリル、月刊プリント、理科の実験セット、社会の資料

○学年打ち合わせ（毎週すべてやるわけではない。必要に応じて）

1. 教科の進度、教材研究（毎週）
 - ・各係が提案
2. 各学級の情報交換（毎週）
 - ・学級の様子、子どもの様子
3. 各校務分掌の係からの連絡、提案（あれば、部会の報告）
4. 次週の予定（毎週、世話係がつくる）
5. 学校行事、学年行事
 - ・計画案の検討
 - ・係分担

○1年を通して気をつけていくこと

1. 各学級の授業の進度
2. 評価の仕方（どの程度共通理解をしてやっていくかは、メンバーによる。）
3. 子どもの問題行動
4. 保護者、地域との関係

○年度当初の仕事例（中学年）

☆学級担任

- ①分ける 指導要録・児童指導資料・健康調査表・健康診断表・児童引き渡し表
- ②前学年から引き継ぎ しあわせはこぼう・図エマット・たんけんバック・社会副読本
社会教科書・名札
- ③作成 机に貼る名札・黒板用名札・日番カード・給食当番表・掃除当番表
学級編成一覧表・学級委員選挙用児童名簿・児童保護者名簿
学級経営案・家庭訪問予定・学級目標・時間割表・日番日誌
児童住所地図
- ④準備・印刷 各教科ノート・お休みカード・音読カード・自己紹介カード
時間割表・座席表
- ⑤用意 教室備品（イレーサー・チョーク・三角定規・1mさし・マグネット
押しピン・セロテープ・メモ用紙）
黒板整備（黒板レイアウト）
テレビ・CDプレイヤー・時計・教科書
掃除道具（ほうき・ちりとり・雑巾）
給食関係（エプロン・マスク・割りばし・ストロー・配膳台拭き）

☆学年全体

- ①きめる 校務分掌・掃除場所・校外学習・バス見積もり・地球っ子プログラム
学年目標・学年経営案・教科担当・副教材（漢字ドリル・計算ドリル）
行事分担（運動会・音楽会）・会計
- ②教育課程 各教科年間計画・日課表・道徳計画・総合的な学習計画
- ③作成 学年だより・学年当初の連絡帳・クラス名簿・百字帳の使い方見本
計算練習帳の使い方見本・ノートの使い方見本

決めておくこと

1. 大きな行事の分担：ペアでやるようにする。そのペアが、全て提案する。年度当初に決める。
2. 教科分担：1単元分の教材について提案する。購入すべきものは、年度当初に教科担当がそれぞれ提案する。
3. 学年全体の指揮：行事も含めてペアでやる。1人が指揮。1人がフォローと他の先生に指示。
4. 子どもに対しては、結論を子どもに言わせること。「こうしなさい。」は禁句。
どうするかを子どもに言わせ、責任を持たせる。
こちらの考えと違う時は、「先生はこう思うけど、よく考えてね。」
Ex. けつまずいてバケツの水をこぼした。
「先生、ばけつをひっくりかえました。」「わかりました。それでどうしますか。」
「そうきんでふく。」「わかりました。そうしてください。」
「見ている人は、みるだけですか。」という感じ。
いつも一言多くなる。それがいかん。

5. 共通理解をして、同じようにするのはなく、お互いに情報交換をしっかりと、誰が何をしているかを知っておくことが大切。「知らなかった。」をなくす。「私の学級」をつくる。

「個性のある学級をつくりましょう。そして、子どもに尊敬される先生になりましょう。」

という。子どもに「私は、〇〇学級だ。△△学級とは違う」という自覚を持たせる。→プライド。そこに担任に対する「尊敬」が生まれる。

6. 教科担任制

- 国語、算数は、担任。ただし、専科になる場合は別。
- みんなが同じように問題解決の授業をすることが理想。

7. PC

- これは、個別化はできるが、集約はできない。
- 個別化したものをどうやってまとめて、授業に載せるかが問題。
- 個別化で終わる授業には、最適。→どうチェックするか？が問題。

8. 宿題

- やらない子をどうやってやるようにするかが課題。やる子はどうやってもやる。
- 反復練習はダメ。→百字・計算→ダメ
- 宿題は、やったかどうかを見てもダメ。→テストをして評価する。
- これから、PCを使うと個別化が進む。そうすると、**家庭学習が課題**になってくる。ただ単に家庭学習といって、プリント等を出せば、学力差はますますつく。そこをどう埋めていくかが問題。